

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 9月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103270		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・牛田新町		
所在地	〒732-0068 広島県広島市東区牛田新町三丁目14番25号 (電話) ①082-511-3281 ②082-209-3528		
自己評価作成日	令和5年7月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103270-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103270-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年8月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設10年目となるが、ひなたぼっこの理念にもあるように「尊厳を保つこと」を大切にし、特に入居者と接する際の言動に敬意を払い、誠実さ、丁寧な介護を心掛けている。一人ひとりの思いを大切にし、本人、ご家族様の要望に出来る限り添えるように支援している。また、入居者の可能性、力の発揮が出来るようホームでの役割りや生きがいを持って生活出来るよう支援している。家庭生活のような安心感の中、生活できるホームを運営するよう心がけている。コロナ流行により制限内での面会となっているが入居者様、家族様が直接お話できる機会を持つことで外部との接触が少ない中でもストレスが少なくなるよう配慮している。また認知症の悪化防止のため刺激を受けていただけるようホーム内で様々な行事を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念にもある、安心した家庭生活が送れる、グループホームの運営を心掛けている。利用者の食に関して、三度の食事、おやつ、行事食等、食べる楽しさや大切さを日常を通して支援している。また室内でのレクリエーションの一環として、立体的な折り紙の制作活動に力を入れ、認知機能の低下防止につなげる取り組みがある。家族に対しては毎月のお便りで『ひなたぼっこ』に、担当者は利用者の状況報告を書き記し、併せてその隣に利用者直筆のお便りが書き添えられ、家族との繋がりが途切れないよう支援している。職員は、法人及び管理者に対して、運営や業務に対しての意見・要望等伝えやすく、研修の参加、資格取得にも法人のバックアップがあり、働きやすい環境で、キャリアアップしサービスの向上につながっている。

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ひなたぼっこの基本理念を、職員全員がいつでも見られるところへ提示し、理念に沿ったケアを心掛けている。	設立当初からの法人理念のもと、昨年より12項目の指針を作成し、職員は毎月の会議で項目を選び、例えば今回は『ありがとう』のエピソードを職員はそれぞれ発表し、話し合いを行い意義を共有し、毎日の支援に活かしサービスの向上に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われているイベントへの参加の他、施設前にて地域の見守り活動への参加を検討していたがコロナウイルスの流行により未実施となっている。	町内会に加入し地域の情報は、回覧板や運営推進会議などから得ている。また民生委員を通じて事業所の活動を発信している。コロナ禍で地域とのつきあいは以前のように出来ないが、利用者の中には窓越しに地域住民に手を振って挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルスの流行により研修会等、大勢の集まる勉強会の開催が難しい状況が続いており、施設としても感染予防の観点から参加を見送っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通常であれば2ヶ月に1回運営推進委員会を開いているが、コロナウイルスの流行により照会方式へと変更している。ご家族様の参加を促す為に家族会と同時開催をする予定であったがこちらも中止のままとなっており、半年ごとのお知らせもできないままとなっている。	会議は定期的に行われ関係者が行っている。現状では書面会議が中心で、内容は活動報告や今後の予定、利用者の状況など関係者の意見を参考に、今後のサービスに活かす取組みがある。また今年6月には出席可能な家族と事業所が、会議を開催し意見交換が行われた。	会議は定期的に行っているが、議事録として欠席家族に届けていない。今後の改善課題の情報共有のためにも、議事録の送付が望まれる。また家族の参加を促す等、更なる取組みに期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町担当者と日頃から連絡を密に取る事は出来ないが、必ず運営推進会議などには報告等行っている。	日頃から関係を築く努力はある。地域主催で『ほうずきケアネット』を通じて研修などの案内があり、職員が参加することで、例えば他の施設の新型コロナウイルス感染症対策の情報を得る事もある。今後も事業所は市町主催の研修会等に参加し、協力関係を築く取組みがある。	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化委員会を立ち上げその中で学習、検討など行っている。内部研修等で学ぶ機会を持ち、職員会議やカンファレンス、申し送りなどでケアについて協議を行い職員一人一人の意識を高めている。</p>	<p>職員のアイデアにより、ハンドベル等を使い拘束をしないケアに取り組んだ事例もある。また言葉による拘束にも気を配り支援している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>コロナウイルスの流行により内部研修を中心に学ぶ機会を持ち、職員会議やカンファレンス、申し送りなどでケアについて協議を行い職員一人一人の意識を高めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人制度、権利擁護に関する制度については、内部研修や職員会議などで学ぶ機会を作っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>不安や疑問点を聞き、ひとつひとつ丁寧な説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナウイルスの流行により家族の面会が制限されており書面や電話でのやり取りを中心に、意見・要望等を聞くよう職員に統一している。直接話をしたほうがよい内容のものに関しては、換気や消毒など感染対策を徹底した上でホーム内とは別の場所にて話し合いを行っている。</p>	<p>面会方法は、新型コロナウイルス感染症が五類になった現在も制限があり、家族の要望が反映出来ないことも有る。利用者の様子は定期的に、手紙や電話等で連絡し支援している。職員は利用者や家族の気持ちを考慮しながら関係を築くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や個別面談、ミーティング等意見や提案を聞く機会を設け、利用者様のサービス向上に努めている。</p>	<p>事業所は職員からの意見は会議の場のみで無く、様々な場面で聞いている。更に職員からの要望があれば会議で話し合い、必要に応じて法人はエリア会議で、ホーム長が毎月出席し、検討しながら意見の反映に取り組んでいる。更に職員が働きやすい環境を作る為の体制を整えている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>面談にて職員の意見を聞く機会を設けている。職員の資格取得を支援している。また意欲のある職員はリーダー職への引き上げなどを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>コロナ流行により現在も外部研修への参加は控えているが資格取得のために外部へスクーリングできる勤務体制を整え、実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者同士コロナ対応等に相互協力、またインシデント・アクシデント件数減少の為に意見交換しサービスの向上できるよう行っている。ユニット間で職員交換を行っての研修はコロナクラスターの件もあり中止している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に本人様・ご家族様と面談を行い、本人が困っていること、不安なこと、要望等を聴きながら、安心を確保する為の関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族様の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、密な関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>初期対応の際は、本人様、ご家族様の思いをしっかり聞き、その時の状態、状況に添ったサービスを提供するように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切にし、職員、入居者の方々が共に必要としている存在であることを伝え、本人様が落ち着ける空間作り、環境作りを整え、コミュニケーションをしっかり図り、信頼関係を築くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>常にご家族様と職員が情報交換し、一緒に支えていく関係を築いている。現在面会制限により情報共有が難しくなっている部分については電話、手紙等で本人の状態・状況を報告している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族様と連携し、利用者の知人、親戚の方などの来訪などしていただける環境を整えている。面会時間も特に定めず、いつでも訪問できるようにしていた。現在はコロナウイルスの流行により一部面会制限をしておりますオンライン面会や換気のよい場所での短時間直接面会、電話での関係継続の支援を行っている。</p>	<p>馴染みの場所に出掛ける事が困難な現状だが、出来る限り人や場所との繋がりを大切に支援している。例えば、家族と協力して混み合う時期を避け、お墓参りに出掛ける利用者も数人いる。また出掛けることが困難な人には手紙や電話をするなど、職員は途切れない関係の継続を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者がお互いのできるレクリエーションを考え、工夫し、日々楽しめるよう提供している。また、入居者同士が互いに協力し合える環境を作り支援に努めている。難しい様子が見受けられるときには職員が間へ入り入居者間の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族様から本人様の現状の経過の電話があったり、馴染みの職員が機会を作って訪問に行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、本人様の希望や訴えをしっかりと聞き、その人らしい暮らしが出来るよう職員会議やカンファレンスを開き都度検討している。	思いを把握するため、担当者は家族や関係者から話を聞き、暮らしに役立てるよう努めている。テレビで小いわしの刺身を見て、食べたい利用者の希望で、買いに行くなど細かい対応をしている事例もある。意向の把握が困難な利用者には行動や言葉の意味を汲み取り、気持ちに添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活状況や生活歴をご家族様の協力のもとに、フェイスシートを作成し、それをもとに状態、状況を把握した上で、ケアを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りノートや生活個別記録に日々変化のあることを記入し、又、申し送りや職員会議などで情報を共有し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様の意向を聞きながら現状できる事を考え、カンファで職員の意見を聞くと共にご家族へ相談し意見を聞いている。作成したものをご家族様に説明し了解を得ている。利用者の希望などは、日々の会話の中から聞き取り、ニーズの表出が難しい方についてはひもときシートを利用しケアプランを作成している。</p>	<p>担当者や必要な関係者がカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。またケアチェック表で出来ないことが多い場合は、話し合いを行い状態の変化等があれば、改めて情報を掘り起こし、評価、見直しを行い介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアについては個別記録に記入し、また伝達ノート、申し送り等で情報を共有し実践に活かし行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人様やご家族の状況に応じて、通院支援や外出希望など、ニーズにこたえられるように対応している。現在はコロナウイルスの流行により必要最低限の受診にとどめさせていただいている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナウイルスの流行により地域でおこなっているいきいきサロン等への参加など、地域資源の活用は見送っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の往診、月2回の訪問看護師の訪問があるが、それ以外に希望の病院などの希望がある場合は、本人様、医師、ご家族様、ケアスタッフと協議し対応している。また、他の医療関係者とも連携を図り、情報提供など行っている。</p>	<p>協力医療機関は隣接の内科で、利用者は週1回の訪問診療を受けている。歯科も週1回、口腔ケアを含め訪問診療がある。かかりつけ薬局も隣接で薬の管理を行い、月2回の訪問看護も利用し、必要に応じて職員と共に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回の訪問看護を受けている。その際に個々の入居者の状態、状況を報告し、健康チェックや相談など行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はその都度病院スタッフの方と治療中の病状や様子を聞き必要に応じて会議に出席している。また、退院になった場合、医師と注意点など細かく相談するようにしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化：入居前面談時にホームでの生活における限界をご家族様に説明し理解していただいている。終末期：ホームで対応出来る事、出来無い事をしっかりと説明し納得いただいた上で看取りを実施している。重度化が進んだ際には再度、ご家族様の意向とホームでの対応について話し合い、擦り合わせを行っている。	利用開始時に法人の方針で、重度化した場合は家族と話し合い希望を確認し、医療及び系列の施設等を紹介しているが、利用者の状態に応じて受け入れる場合もある。職員は重度化の予防に重点を置き、事業所の方針に従った支援に取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生マニュアルを用いて、職員全員に周知徹底しており、定期的に職員会議にて急変時の対応を確認している。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の消防訓練を行い、その内1回は日中を、もう1回は夜間を想定した訓練となっている。コロナウイルスの流行により地域の方や消防職員の方と一緒に行う大掛かりな訓練は中止となっている。	年2回夜間想定を含め、昼間の訓練は利用者が参加し定期的に行っている。地域との連携は災害時は受け入れる体制がある。近隣に山や川が近くに有り、ハザードマップで位置と危険性を把握し、職員は情報を共有しながら対応している。備蓄は使用期限が切れたものから使用しながら確保している。	



自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応ができるよう心掛けている。また3か月に1回の身体拘束虐待防止研修内で虐待の芽ということで荒い声掛けや対応など不適切ケアを報告しお互い注意し合っている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、情報を共有している。職員は日頃の声掛けや話し方等、人格やプライバシーを尊重し、また職員は事例が発生する度に、申し送りや会議を通して話し合い、個々の人格を尊重する大切さを共有しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者との関わりの中で、希望や思いを気軽に言えるように努め、できるだけ希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人様の生きがいや、やりがいを見つけ出しその方のペースに合わせ穏やかな生活ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思で衣類などを選ばれる入居者についてはその意思を最大限尊重している。選ぶことが困難な入居者には本人様と職員と一緒に選び支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りを共に行う事で食事に対する楽しみを提供している。また、日々の食事準備や片付けなどを一緒に行ったり、食事作り等が困難な方には味見をお願いしたりとご本人に出来る事を見つけ行っている。外に出かける機会が減少していることから入浴の無い日におやつ作りを一緒にする機会を増やしている。	食事は三食、職員が利用者と共に作っている。外食が出来ない今は利用者の希望で、お好み焼きやハンバーガー等、取り寄せることもある。またリビングで長い竹を設置しそうめん流しを行ったこともある。食事環境も利用者の席の配置などに気配りを行い、楽しく飽きない食事を支援している。	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事摂取は個別表に食事摂取量を記入 し、栄養バランスは、献立表に記入し確 認している。食事では、食べにくいもの は切ったり硬い物は柔らかい食べ物で提 供するなど工夫をしている。水分摂取も 食事やおやつ時、入浴後など十分に摂っ ていただくよう声掛けし、水分不足を補 えるよう10時にゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週水曜日に、歯科往診があり、口腔状 態の確認を行い、歯科医、歯科衛生士か らの指導等行っている。現在はコロナウ イルス流行により1度に2名程度にとどめ ていただきながら歯科往診を再開してい る。職員を中心に食後には、より良い口 腔ケアになるようにひとりひとり状態に 合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	トイレに行くことを基本とし、その入居 者にあった時間や声掛け、誘導を行いな がら、自立に向けた支援を行っている。	車イス対応のトイレを含め3カ所有り、 トイレ内にタオル保温庫がある。夜間は ポータブルトイレや人感センサー、職員 のアイデアを活かしたベルを活用し、残 存機能を活かし排泄の自立に向けた支援 がある。便秘の対応も薬に頼らず、運動 や食事を工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に食物繊維の多い野菜を提供すると 共にバランスの摂れた食事を提供してい る。1日3回程度軽い体操などを行ない、 便秘予防に努めている。 水分摂取量が少ないため便秘気味になる 事もある為、10時にゼリーをおやつと して提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入居者の状態に合わせて、週2回の入浴 を実施している。本人のペースで、リ ラックスできる入浴を目的として行なっ ている。また、体調をくずし入浴できな い場合は入浴日の変更を行い、それも難 しい場合には清拭をし清潔保持に努めて いる。	入浴は週2回午後より、利用者一人ひと りの希望に寄り添い入浴を行っている。 無理強いせず職員が声掛けや時間帯の タイミングを図り、無理しない入浴を支 援している。また入浴剤を使用し色や香 りを楽しんでいる。温度管理にも気を配 り工夫しながら支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就眠時間など一人ひとり合わせ対応し、本人のペースで安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を保管し、職員が薬の情報についていつでも見られるようにしている。また誤薬がない様に、服薬の前に職員が二重の確認をし、服薬介助している。常備薬でない薬は職員が使用日・終了日を個別記録へ記入し確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者個々のレベルに合わせ、得意な事、できることを支援し、感謝の気持ちを伝えている。又、そのことが困難であっても、本人様が懸命にしていることは、見守り支援している。1カ月に1度大きなイベントを行っており利用者の楽しみごとになるよう勤めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスの流行により、現在買物に行く機会の提供は取りやめているが、マスク着用の上で近隣への散歩は継続中。本人様の希望に添える様普段の会話の中で聞きだし、個人レクなどで対応している。	現在は出掛ける事が困難な状況で、天気の良い日は玄関先のイスに腰掛けるなど外気浴を楽しんでいる。また近くの不動態院まで散歩をする等、職員は出来る限り日常的に出掛けられるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の自己管理は、ご自分で管理することが困難な方が多くトラブルになりやすいため、基本的にはご家族了承の元、ホーム立替にて購入していただいている。お金の本人所持はお金を持っていないと落ち着かない方など、家族の同意を得た一部の入居者のみ対応している。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話をかける際はまず職員がご家族様と話をし、それから本人様に代わって対応している。手紙は書いたものを預かり職員が宛名を書いて送るよう支援している。コロナウイルスの流行で面会制限をしている事もあり、事前予約は必要だがテレビ電話でのやりとりも支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>照明は全てLEDを設置しており居室、廊下、リビング等明るくしている。また、月の行事の写真をリビング等に貼るなどし、入居者と一緒を楽しんだり、毎月の季節に応じた壁画や折り紙で作成するなどし、できあがったものをリビングや廊下に貼りつけて飾っている。</p>	<p>リビングの壁には、職員と利用者で作った立体的な季節の手作り作品が飾ってある。外出が出来ない現在は、お正月には手作りの鳥居を設置した。利用者は野球好きが多く、応援グッズなどを飾り、テレビで野球観戦を楽しむ場所になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下、玄関前などにイスやソファを設置し、自由に入居者が気軽に過ごせる空間づくりをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>親しみあるものをご家族様に持ってきていただいたり、いままでに使用していた物などを使用するなどし、本人が居心地良く過ごせる様工夫している。</p>	<p>職員は利用開始時、利用者の自宅等を訪問し、大切にしているものを把握している。居室はベッド、エアコンが備え付けられ、ミシンとテーブルや、スツール(背もたれの無いイス)を設置している利用者もいる。また家族の要望で部屋いっぱいじゅうたんを引くなど希望に添って過ごせる配慮がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室の出入り口には表札をかけた本人様に分かるようにしている。リビングやトイレ、お風呂などにも分かりやすく目に見て判断できるようにしている。出来る限り入居者の方々の残存機能を生かすことが出来るよう職員で検討し自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目(牛田新町①) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム内に理念を掲示し常に意識して理念に沿ったケアが出来るよう心掛けている。また、去年より「ひょうまの流儀」というコンセプトブックを作成し、理念や行動指針の実践を共有するために毎月読み合わせをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	今年はコロナウイルスの影響で参加できなかったが、毎年、民生委員の方に声をかけていただき、地域のお祭りや行事に参加させて頂いている。また、地域との繋がりが途絶えないよう、近所のスーパーや飲食店を使用しているが、入居者は行く事ができておらずコロナ禍での地域交流は課題となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域においてはまだまだだと思う。今後、地域包括センターと連携をとりながら関係作りなどの強化に向けて働きかけを行っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は新型コロナウイルスの影響で開催することが難しい為照会方式にて行っている。民生委員、家族、地域包括センターの方々から意見を聞き、職員会議にてフィードバックし、今現在の実施状況を見直し改善する事でサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内を行い会議録を送付し連携を図っている。運営推進会議などで地域包括センターとの連携を深め、情報の収集と相談などを行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	家庭的な雰囲気の中で「その人らしさ」を見失う事なく身体拘束やスピーチロックをしないケアに取り組み、職員会議、日々の申し送りやカンファレンスで職員個々が行っているケアを振り返り事で自覚のない身体拘束がないか確認している。3ヶ月に1度の委員会ではグループに当たるケアも具体的に話し合い会議で情報発信を行っている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議、日々の申し送り、カンファレンスでケアについて協議し意識統一を図り、言葉の暴力につながらないよう職員間でお互いに注意合いあえるよう心掛けている。また虐待の種類や行なわれる背景について定期的に勉強会を行い、利用者への言動や言葉の使い方、名前の呼び方等について注意喚起を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活支援事業や成年後見制度の違いについても研修を行っている。また、カンファレンス、職員会議でも定期的に勉強会を行っている。入居者の中にも成年後見制度の利用をされている方もおり、必要に応じて活用できている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、契約書、重要事項説明書の内容説明を行い同意を得ている。入居後も家族と連携を図り、不安、疑問点があれば説明を行い、理解が得られるように対応している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に一度ホーム便りを送付したり、家族アンケートをとったりし、そこで出た意見を取り入れるようにしている。コロナ禍では面会制限が続く中、窓越し面会やWeb面会を取り入れている。話しやすい雰囲気作り、気軽に話しかけて頂けるよう心がけている		



自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別面談、職員会議、日々の申し送りで意見を聞く場を設け業務改善として反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の努力、スキルアップを把握できるよう面談、自己評価を行っている。職員の資格修得も支援しており、認知症ケアにおける対応方法や考え方の指導を行い、共に考える場を作るようにしている。また残業もない事で職員が安心して働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の育成段階に応じた指導や係りの役割当てを行っている。現在は新型コロナウイルスの影響で内部研修が行えていないが、zoom研修等への参加で知識・意欲の向上を図っている。また定期的に職員会議でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年はコロナウイルスの影響で難しかったが、他事業所との交流や意見交換、勉強会などに参加できるよう勤務体制のうえで配慮している。また、定期的にホームの状況報告や空き情報等の報告を行い交流が図れるようにしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人と面接を行い、不安や困っていることなどを聞き、入居を決める前に体験入居を行い不安を軽減できる環境を整えている。入居初期は細やかな観察と声かけを行い安心感が得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(牛田新町② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談から入居まで、家族様と話す機会を多く持ち、困っていること、求めていることを事前に聞き、準備してからの利用となる。また入居後もホーム内での様子を定期的に報告する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の段階では、出来る限り情報収集に努めアセスメントを行い、必要とされるサービスに優先順位をつけ暫定介護サービス計画書の同意のもとで行っている。また、本人様の小さな訴えや要望にも、しっかり耳を傾け必要なサービスを検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その日の状態や気持ちに寄り添い、片付け、洗濯、配膳等一緒に行くことで共に出来ることを行っている。共に生活していくことで日頃の会話から人生の先輩として学ぶ事はたくさんあり、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルスの影響で面会制限がかかる中でも、窓越し面会やオンライン面会等でご家族との関係性が薄れない様努めている。本人の状況を家族に伝えることで情報交換を行い共に支え合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からの生活歴や馴染みのある暮らし方を本人や家族の方から情報収集し大切なものとの関わりを無くさない様事前の把握に努めケアに繋げている。また居者が電話をかけた手紙を書く事を積極的に支援している。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤独にならないよう、職員も間に入り、食事、レクリエーション等の場を活用し関わりが持てるようにしている。また調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど複数で一緒に行い、共に支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も気軽に来ていただけるような雰囲気作りを行い、家族から現状の経過や電話等がありホームを離れても関係作りは大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の日常生活の中での言動を観察し、本人の得意、苦手な分野を把握することで本人の思いに添った過ごしやすい環境作りを支援している。また、家族の方とも相談しながら本人本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報や、本人からは生活歴などを日常会話から聞き出し、好きな事や嫌な事の気持ちを把握するようにしている。家族に対しても必要に応じて生活歴を聞くようにしている。また、入居前のケアマネの方とも連携を図り情報を共有できるよう努めている。職員同士でも情報交換し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者個々で役割を決め、力を発揮する場を作っている。一人一人の1日の過ごし方を自分らしくして頂く為に随時声かけを行っている。それぞれの入居者の一日の流れを分かりやすく日誌に記録し、常に現状を把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の要望も取り入れながら、ご家族に意見を求め、職員会議での職員の意見を反映し、日頃の日誌、ケアチェック表、定期的なモニタリングを行い、現状に必要なサービス計画が作成できている。また主治医とも連携し最適なケアプランを作成することに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の日誌で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。日誌では、入居者に変化があった場合は、精神面、身体状況、ケアの実践状況等24時間シートを使用し細かく記録している。特記事項としては申し送り事項を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ対策を行うようになってからはユニット間の行き来も控えている。行事の催しや企画があれば一緒に取り組み参加するなど柔軟な対応を行っていたが現在は行っていない。ドライブレクの実施で、本人様の行きたい場所や希望を聞く事や食事で食べたいものを聞く等の工夫は行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	回覧板や東区のホームページ等を通し、地域資源の情報収集を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム隣に協力医療機関があり、入居時に、今までのかかりつけ医を継続するか、移行するのを選択してもらっている。また協力医以外での受診についても、協力医、家族と連携を図り対応している。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回の訪問看護を受けている。訪問時に個々の入居者の状態、状況の報告をし情報提供している。健康チェックや相談、助言、指導を受け、状態により主治医への報告や指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後にフェースシートにて情報提供を行っている。入院した後は早期退院出来るよう、必要時病院の地域連携室、家族と連絡を取り状態確認を行っている。本人、家族の想い、施設の状況を報告し連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の方針について書面にて説明し共有している。また、実際に重度化した場合は家族、主治医、訪問看護と連携を取り、状態を説明し話し合っている。出来る限り家族様、入居者様の望む形での支援が行えるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生マニュアルを用いて職員全員に周知徹底している。実践を取り入れた救命講習等、緊急時の対応について勉強会を行っている。最近では新型コロナウイルス感染対策等を含めた研修・実習も行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、そのうち1回は消防署指導の下で避難訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも協力いただいている。また、地域の方の災害時の一時避難場所となっており非常時の食糧も用意している。去年の課題であった夜間想定訓練も順次行っている		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の性格を尊重し思いや訴えに対して傾聴している。その方の言葉をきちんと受け入れ、否定はしないように心掛け、入居者様を名字でさん付けで呼ぶよう取り組んでいる。態度や言葉使い等でもプライバシーを損ねないよう意識の共有を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が決定できるような選択肢のある言葉かけを行うよう努めている。会話の中から、または表情からも希望などを読みとるよう努めている。本人の希望を言いやすいような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に優先順位を考え業務に取り組み入居者のペースを乱さないよう努めている。普段の生活の中でも他者に聞かれたくないような話の場合は、マンツーマンで話せる環境を作っている。また、各入居者の生活リズムを尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出や行事の時はいつもと違った服を選んで、また定期的に理美容サービスがありお化粧をすることで、その人らしくいれるよう支援している。理美容サービスの際は本人の希望をカタログで見ても髪型を決めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に合った内容の食事準備、盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。入居者の意見や希望に応じ、TVや雑誌、チラシ等で目にしたもので、その日に食べたい食材や、旬の食材があれば、買い物に行き購入している。それが夕食時の楽しみにも繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目(牛田新町② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	その方の体調や状態に合った食事量、食 事形態で提供している。食事摂取量の記 録は全員行っている。水分量の少ない方 は申し送りで伝達し情報共有している。 食べにくいものは切ったり、固い物が苦 手な方は、柔らかい食品を提供できるよ う支援している。食事量の少ない方には 栄養補助食品等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、記録の中でも口腔 ケアの記録を記入している。毎週、歯科 往診に来てもらい、治療や口腔ケアを行 い清潔保持に努めている。また、介助や 見守り・声かけ等それぞれの出来る力に 合わせた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄の時間帯 を把握し、入居者のサインを見逃さない ようトイレ誘導を行っている。全ての入 居者がきちんとトイレで排泄できるよう に支援している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に乳製品、野菜、食物繊維の多い物 を取り入れ工夫している。毎朝、体操を 行い自然な排便があるよう支援してい る。排便困難3日目、4日目には主治医と 連携し、個々の状態に合った下剤を服用 する事で便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日や時間は決めているが、入居者様の 希望や体調に合わせて対応している。ま た入浴剤や浴室らしさを出し、入浴が楽 しめるようにしている。同性介助を望ま れている方には、そのように対応し、安 心感にも配慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目(牛田新町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の居室へ自由に帰っていただき休息している。居室も安心して休んで頂けるよう、寝具等馴染みの物を配置し気を配っている。日中、体操やレクを通して身体を動かし、洗濯たたみ、食事の用意など役割を持ってもらい夜間良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者1人1人にファイルを作り、常に最新の処方薬情報を綴っている。職員は薬の目的や副作用、用法、用量を理解したうえでの服薬介助を行うように努めている。精神薬を服用されている方には些細な変化を見逃さず記録に残すように心がけている。また、薬剤師による居宅療養管理指導を受け連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々で役割を持っていただき生活リハとして行っている。習字や壁紙の作品の作品をリビングに展示したり、観葉植物の好きな方には水やりをしてもらったり、料理好きの方には食事を作ってもらったりと、それぞれの良さを活かせる場面作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルスの影響で現在は外出や買い物に出かける機会が持てていないが、天気の良い日は外気浴やホーム周辺を職員と一緒に散歩したり、ドライブに出掛けたりして、外に出る機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本は立替という形で本人様の欲しい物を購入しているが、自分で所持したい方は、家族同意の上で行い、コロナ前は買い物に行って好きなものを選びレジでお金を払うという行動ができるよう支援していた。現在は買い物は行けていないが、ヤクルトの購入等をされている方もあられる。		



自己評価	外部評価	項 目(牛田新町② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月1回のホーム便りで入居様全員にご家族に手紙を書いて頂けるようにしている。また、携帯電話を持たれている方も使い方の分からない方には、職員が折り返し等の手伝いをする事でいつでも電話できるよう支援している		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには入居者様と一緒に作った作品の展示や季節感のある飾りつけをしている。浴室、トイレなどの共同空間では不快にならないような温度調節や、混乱を招くような刺激物を避ける等の工夫を行い気持ち良く生活出来るように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事はリビングで気の合った入居者同士で出来るよう、座席の組み合わせには配慮している。リビング中央にはテレビ・ソファがあり、もう一箇所にもソファとちゃぶ台を置き、思い思いに過ごせる環境になっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた家具を置いたり、馴染みのある写真等を飾って一人1人の入居者らしい居室を作り、居心地良く過ごせるよう工夫しているがまだまだである。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒リスクに配慮した家具の配置や動線を工夫している。また手すりを設置し自力で移動、行動できやすくしている。建物内はオール電化、段差なしで安全の確保に努めている。		

V アウトカム項目(牛田新町②) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・牛田新町

作成日 令和5年9月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へ家族様の参加があまり出来ておらず、参加していない家族様への発信も出来ていない。	家族様の参加率向上と不参加の家族様への情報発信を行う。	年に1~2回程度は運営推進会議を土曜日の参加しやすい時間帯で開催する。 また年に1~2回程度、議事録をまとめたものを全家族様へ送付する。	1年
2	19	コロナ流行から家族様へ面会制限を行っており以前のような交流が出来ていない。	以前のような交流や外出が出来るように支援する。	感染に留意しながらも以前のような交流が出来るよう環境整備を行う。 また外出の際の注意事項などを家族様へ理解していただけるようどの職員も同じ説明が出来るようにしておく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。